

# 下水処理の仕組み

## 私たちにできることって？

**油やごみ(※)を下水に流さないでください。**

油は微生物による分解が困難で、殺虫剤や農薬などの薬品は微生物を死滅させる場合があります。

ごみは、分解が困難であるとともに、詰まりによって機器が故障します。

下水処理に負担をかけないようにするために、

また、きれいな川を維持していくために、

ご協力をお願いします。

※野菜くず・髪の毛・水に溶けない紙など

塩素滅菌池ではきれいになった水に潜む大腸菌などを減らすため、塩素を加えて消毒し、川に放流します。

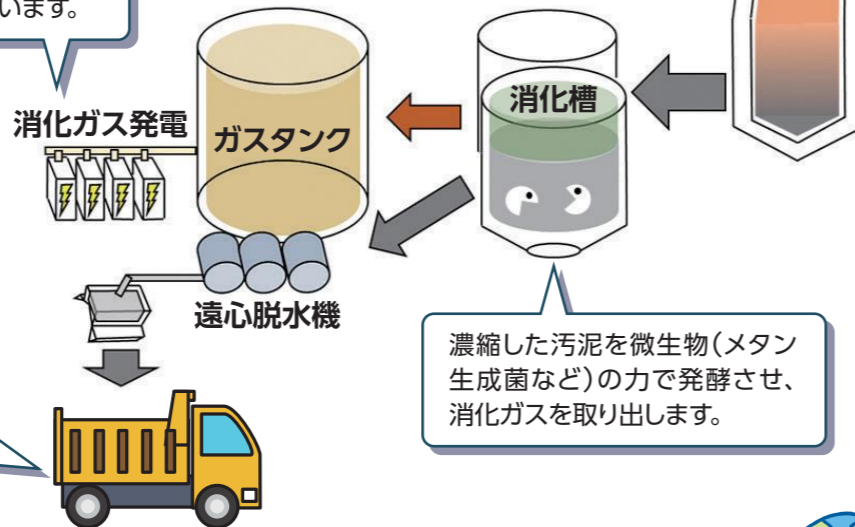
水の汚れを分解した微生物を池の底に沈め、一部は再びエアレーションタンクへ、残りは汚泥として濃縮槽へ、澄んだ水は塩素滅菌池へ送られます。

取り出したガスを燃料にして発電しています。発電された電気で、施設内の使用量の約30%を賅っています。

1日の発電量は約4,200kWh  
(一般家庭 約270軒分)

消化槽で約1/3に減量された汚泥は遠心脱水機でさらに水分を減らし、処理施設へ搬出します。セメントなどの資材や肥料などに有効に活用されています。

1日の脱水汚泥の発生量は約12t



濃縮した汚泥を微生物(メタン生成菌など)の力で発酵させ、消化ガスを取り出します。

きれいな川を守ろう



トイレや台所で使った水は、流した後どうなるの？

地中の下水道管を通して下水処理施設に集め、**微生物の力で水をきれいにしています。**

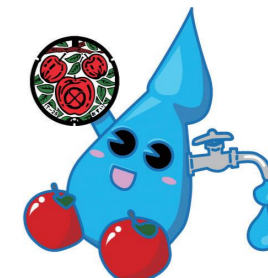
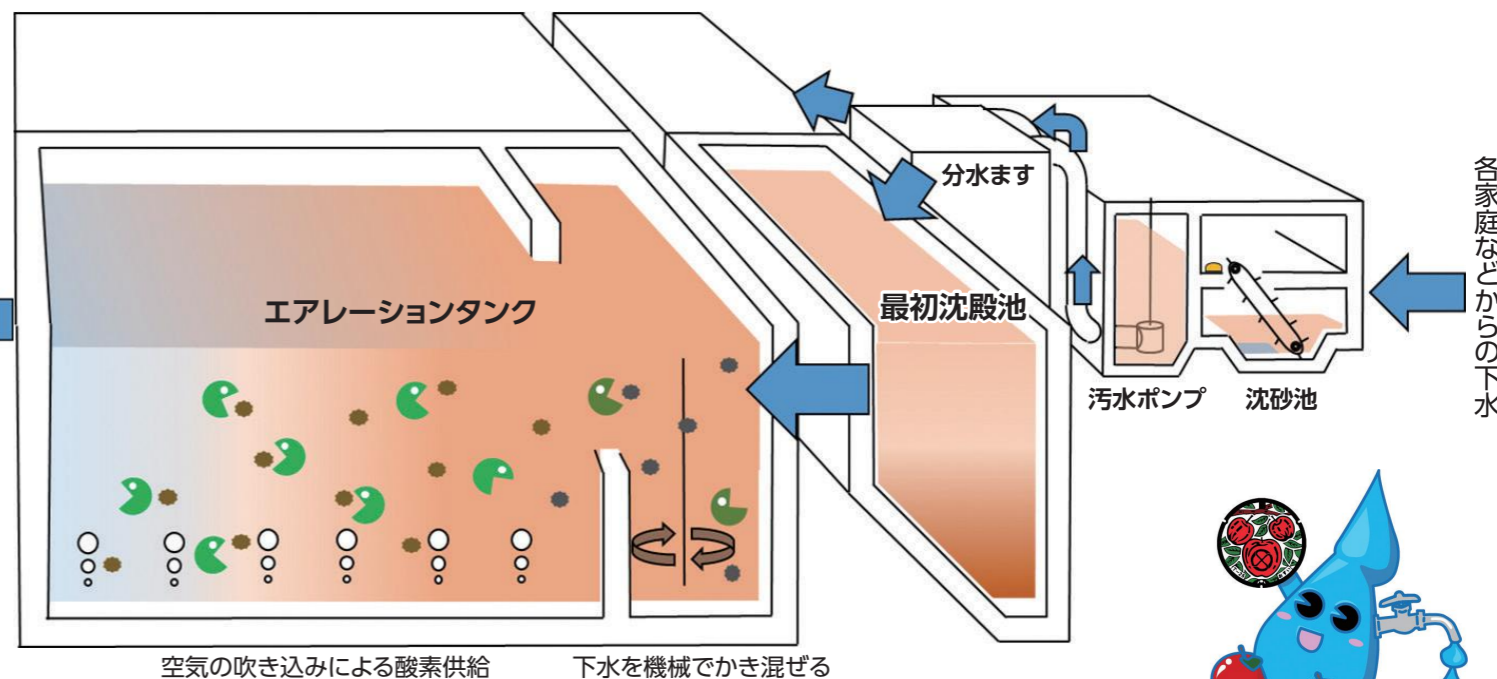
およそ12時間かけて処理し、魚がすめるくらいまできれいにして川に放流します。



1日に松尾浄化管理センターに入ってくる下水の量はどのくらい？

約32,000m<sup>3</sup>で、25mプール**80杯分**です。

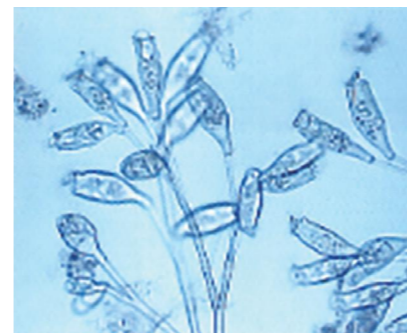
## 松尾浄化管理センターにおける処理工程



▲飯田市上下水道局キャラクター

エアレーションタンクでは下水に微生物と空気を混ぜます。

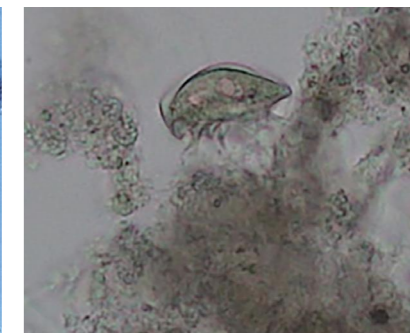
微生物は空気中の酸素を得て活発に活動し、生活排水に含まれる汚れの元となる有機物を食べるなどして分解していきます。



オペルクラリア



トコフィリア



アスピディスカ